福岡県立総合射撃場個別施設計画について

【施設の概要】

	文	象施	設		福岡県立総合射撃場				
	所管				教育原	教育庁教育振興部体育スポーツ健康課			
整	理 番 号			号	63	竣工年度 平成元年度			
所		在		地	福岡県筑紫野市大字柚須原223-25				
敷	地面	前積	(m^2)	143, 131. 27	建築面積(m²)	2, 410. 42		
主	主 構 造			造	S 延床面積(㎡) 2,410.42				
主要建築物管理棟、エアラ					管理棟、エアライ	フル棟、スモールボア	プライフル棟		

福岡県立総合射撃場はとびうめ国体の開催を契機に設置され、散弾銃射撃及びライフル射撃の普及振興並びに射撃技術の向上を図り、心身の健全な発達に寄与することを目的としています。

【個別施設計画の策定単位】

福岡県立総合射撃場の個別施設計画については、当該施設を構成する建築物を①管理棟、 ②エアライフル棟、③スモールボアライフル棟の3つに分け、それぞれについて今後の改修 等に関する計画を策定しました。

福岡県立総合射撃場 管理棟 個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	6 3
施設所管課	教育庁教育振興部 体育スポーツ健康課

令和2年2月

☆福 岡 県☆

福岡県立総合射撃場管理棟 個別施設計画

目次

第1章	概要	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •
	(1)	対象施設の概要
	(2)	対象施設の活用状況
	(3)	計画期間
	(4)	位置図等
第2章	優先順	負位の考え方 ・・・・・・・・・・・・・・・・3
	(1)	施設間の優先順位
	(2)	施設内での優先順位
	(3)	その他
第3章	個別施	正設の状態等 ・・・・・・・・・・・・・・・・4
	(1)	個別施設の状態
	(2)	施設の現存率
	(3)	目標耐用年数
第4章	対策⊄) ウ内容等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
	(1)	改修・更新について
	(2)	対策の平準化について
	(3)	対策の内容等

第1章 概要

(1)対象施設の概要

対	象	-	施	設	福岡県立総合射撃場					
所				管	教育原	教育庁教育振興部体育スポーツ健康課				
整	理	;	番	号	63	竣工年度	平成元年度			
所		在 地			福岡県筑紫野市大字柚須原223-25					
敷	地 面	ī 積	(m^2)	143, 131. 27	建築面積(m²)	2, 410. 42			
主		構		造	S	延床面積(m²)	2, 410. 42			
主	要	建	築	物	管理棟、エアライフル棟、スモールボアライフル棟					

(2) 対象施設の活用状況

建	物	の	名	称	管理棟					
棟	番	•	枝	番	1013	_	1	竣工年度		平成元年度
建築面積(m²) 334.11 延床面積(m²) 334.11						334.11				
構	造	•	階	数	RC造	地上1	階			
					各	階 面	ī 積	及び用途		
階層	階別 階床面積(㎡) 主 な 用 途 (室名他)						他)			
1F	î		334	. 11	事務室等	Ę				

福岡県立総合射撃場の管理棟はとびうめ国体開催にあたり、平成元年度に竣工しました。

散弾銃射撃およびライフル射撃の普及振興並びに射撃技術の向上を図り、心身の健全な発達に寄与することを目的とした施設となっています。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築30年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

(2) 施設内での優先順位

全体的に経年による劣化が進行している状況です。また、トラップ射撃場前の 屋外トイレが老朽化していることに加え、バリアフリー化にも対応していないた め、優先的に整備します。

その他老朽化が見られる設備等においても予防保全型管理のうえでの標準的な 改修時期に合わせた計画的な改修を行っていきます。

(3) その他

敷地内には管理棟のほか、エアライフル棟、スモールボアライフル棟があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

目地やシーリング材の劣化を始め、全体的に経年による劣化が進行しています。

施設設備の不具合等が発見された場合には事後保全による修繕を行っていますが、予防保全による改修はできていない状況です。

(2) 建物全体の現存率

建築物現存率調査票

施設名称	福岡県立総合射	擊場		建物名称	管理棟			
所在地	筑紫野市大字柚須原223-25		棟番•枝番	1013	- 1	築年数	30 年	
建築年度	平成元4	年度	建築面積	334.11 m²	四大家	74.7	想定	65 年
構造∙階数	RC	1	延面積	334.11 m ²	現存率	74.7	耐用年数	00 H

区分	<u>構成(P)</u>		仕様	経過 年数	<u>現象(K)</u>	<u>× 100</u>	(PK)	Σ ΡΚ/Σ Ρ
構造	躯体	40	S	30	1.000	100.0	4,000.0	-
			小計				4,000.0	100.00
	屋根・防水	20	スレート瓦屋根	30	0.533	53.3	1,066.0	-
主要部 仕上げ	外壁	20	塗装、その他	30	0.500	50.0	1,000.0	_
	小計							51.65
電気設備	受変電設備	10		30	0.600	60.0	600.0	-
EXW.			小計				600.0	60.00
機械設備	給排水·衛生·給 湯設備	10	H11_浄化槽設備工事	20	0.800	80.0	800.0	-
IX IX IX IM		800.0	80.00					
	`		合計		·		7,466.0	74.66

この結果、福岡県立総合射撃場の管理棟の現存率は「74.7」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
躯体	S	100. 0	耐震診断による Is 値 ¹	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
			防水層からの漏水 またはその痕跡	広範囲に少しずつの劣化がある多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある部分修繕でも対応可能
屋根	スレート瓦屋根	53. 0	防水層の劣化	広範囲に少しずつ の劣化がある多数の部材に各々 少しずつ劣化部分 がある部分修繕でも対応 可能
			経年 (新設もしくは改 修後)	経年 20 年以上
/al Pos	塗装		外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	広範囲に多くの劣化がある少数の部材にも多くの劣化部分がある大規模修繕が必要
外壁	その他	50. 0	漏水の発生・痕跡の有無	広範囲に少しずつ の劣化がある多数の部材に各々 少しずつ劣化部分 がある部分修繕でも対応 可能
内壁	石こうボード EP	80. 0		
天井	化粧石こうボー ド	80. 0	劣化	仕上げ材等の劣化が 多く認められるが、 部分修繕で対応可能
床	ビニールシート 張り	60. 0		
建具	木製	70. 0	劣化	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等の劣化が 多く認められるが、 部分修繕で対応可能

-

¹ Is 値:構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
電灯・電話設	電灯設備 電気時計 拡声設備	60. 0	定期点検等の結果	特に問題なし
備	避雷設備電話設備	00.0	経年(新設後更新後)	経年 20 年以上
受変電設備	あり	60. 0	定期点検等の結果	
文	ω, γ	00.0	経年 (新設後更新後)	経年 25 年以上
自家発電設備		00. 0	定期点検等の結果	_
日外儿电队佣		00.0	経年 (新設後更新後)	_
動力設備	動力設備	20. 0	経年(新設後更新後)	経年 25 年以上
非常用照明・	非常用照明	70. 0	定期点検等の結果	特に問題なし
火災報知設備	火災報知設備	70.0	経年 (新設後更新後)	経年 15 年以上
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	20. 0	経年(新設後更新後)	経年 20 年以上
空気調和・換	空気調和設備 換気設備	70. 0	定期点検等の結果	特に問題なし
気・排煙設備	排煙装置	70.0	経年(新設後更新後)	経年 15 年以上
給排水・衛	給排水設備	90 O	定期点検等の結果	特に問題なし
生・給湯設備	衛生設備 給湯設備	80. 0	経年(新設後更新後)	経年 10 年以上
冰 下記 在		00.0	定期点検等の結果	_
消火設備	_	00.0	経年(新設後更新後)	_
エレベーター		00.0	定期点検等の結果	_
設備	_	00. 0	経年 (新設後更新後)	_

(3) 目標耐用年数

	W F	耐震	性能	鉄筋	平均	中性化	目標
74.65 6-		耐震	1生 肥	腐食度	圧縮強度	深さ	耐用年数
建築年	経年	耐震基準	補強後の I S値		_		65 年
1989	30	新	_				

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いため、福岡県立総合射撃場の管理棟の目標耐用年数を原則どおり65年(残年数を35年)と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築30年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は35年となり、計画期間に施設の更新(建替え)を行う予定はありません。

(2)対策の平準化について

トラップ射撃場前の屋外トイレの老朽化が激しく、また、バリアフリー化にも 対応してない状態であるため、当該トイレの改修を優先的に行います。

その他優先順位の考え方に沿って、費用や事務負担軽減等を図る観点から平準 化を行い、順次改修を行うこととします。

(3)対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、取組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

				(百万円)			
豆 八	话日	実施時期					
区分	項目	令和元~2年度	令和3~5年度	令和6~8年度			
主要部仕上げ	屋根・防水、内	0	6	1.0			
土安部(11上()	壁、天井、建具	0	O	13			
	電灯・電話設備、						
	自家発電設備、動			10			
電気設備	力設備、非常用照	0	9				
	明・火災報知設						
	備、その他の設備						
	給排水・給湯・ガ						
	ス設備、空気調						
機械設備	和・排煙設備、消	0	3	9			
	火設備、エレベー						
	ター						
その他	階段昇降機等	29	0	0			
	計	29	18	32			

[※]上記は実際の予算や事業費等とは異なります。

福岡県立総合射撃場 エアライフル棟 個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	6 3
施設所管課	教育庁教育振興部 体育スポーツ健康課

令和2年2月

☆福 岡 県☆

福岡県立総合射撃場エアライフル棟 個別施設計画

目次

第1章	概要	••••••
	(1)	対象施設の概要
	(2)	対象施設の活用状況
	(3)	計画期間
	(4)	位置図等
第2章	優先順	質位の考え方 ・・・・・・・・・・・・・・3
	(1)	施設間の優先順位
	(2)	施設内での優先順位
	(3)	その他
第3章	個別旅	正設の状態等 ・・・・・・・・・・・・・ 4
	(1)	個別施設の状態
	(2)	施設の現存率
	(3)	目標耐用年数
第4章	対策⊄)内容等 ・・・・・・・・・・・・・・8
	(1)	改修・更新について
	(2)	対策の平準化について
	(3)	対策の内容等

第1章 概要

(1)対象施設の概要

対	象	-	施	設	福岡県立総合射撃場				
所				管	教育庁教育振興部体育スポーツ健康課				
整	理	;	番	号	63	63 竣工年度 平成元年度			
所		在		地	福岡県筑紫野市大	福岡県筑紫野市大字柚須原223-25			
敷	地面	ī 積	(m²)	143, 131. 27	143, 131. 27 建築面積(㎡) 2, 410. 42			
主		構		造	S 延床面積(m²) 2,410.42				
主	要	建	築	物	管理棟、エアライフル棟、スモールボアライフル棟				

(2) 対象施設の活用状況

建物	の	名	称	エアライ	フル植	ŧ				
棟 番	•	枝	番	1013		2	竣工年度		平成元年	三度
建 築	面積	(r	n^2)	1, 2	298. 32		延床面積(m	²)	1, 298.	32
構造	•	階	数	S造 地	上1階	上				
	各階面積及び用途									
階別	階床市	面積(m²)			主	な用途(室 名	他)	
1F	1	, 298	3. 32	エアライ	フル身	対撃場				

福岡県立総合射撃場のエアライフル棟はとびうめ国体開催にあたり、平成元年度に竣工しました。

エアライフル射撃の普及振興並びに射撃技術の向上を図り、心身の健全な発達 に寄与することを目的とした施設となっています。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築30年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

(2) 施設内での優先順位

経年により劣化が進行している設備についても予防保全型管理のうえでの標準 的な改修時期に合わせた計画的な改修を行っていきます。

(3) その他

敷地内にはエアライフル棟のほか、管理棟、スモールボアライフル棟があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

外壁全面で汚れや仕上材の腐食など外装の老朽化が目立つ状況にあり、ギャラリーの天井において漏水痕も見られます。

施設設備の不具合等が発見された場合には事後保全による修繕を行っていますが、予防保全による改修はできていない状況です。

(2) 建物全体の現存率

				築物現	見存率	≤調:	査票						
施設名称	福岡県立総合射	建物	建物名称エアライフル棟										
所在地	筑紫野市大字柚纸	頁原2	23-25	棟都	≸•枝番		1013	_	2	築年	数	30	年
建築年度	平成元年	度	建築面積		1,298.32	m [‡]	現存率	68	_	想知	È	65	Æ
構造∙階数	S	1	延面積		1,298.32	m [‡]	現任平	08	.0	耐用年	F数	65	#
区分	<u>構成(P)</u>		仕様		経過 年数	現	象(K)	<u>× 1</u>	00	(PK)	Σ	ΡΚ/Σ	<u>P</u>
構造	躯体	40	s		30		1.000	10	0.0	4,000.0	-		
11772				小計						4,000.0	,000.0 100.00		
	屋根•防水	20	その他		30 0		0.400	40	0.0	800.0		-	
主要部 仕上げ	外壁	20	塗装、その他	30			0.400	40	0.0	800.0		-	
				小計						1,600.0		40.00	
電気設備	受変電設備	10			30	(0.600	60	.0	600.0		-	
-5.7412.1/113			小計						600.0		60.00		
機械設備	給排水·衛生·給 湯設備	10			30 0.600		60	.0	600.0		_		
			小計						600.0		60.00		
			合詞	†						6,800.0		68.00	

この結果、福岡県立総合射撃場のエアライフル棟の現存率は「68.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定	
躯体	S	100.0	耐震診断による Is 値 ²	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準	
			防水層からの漏水 またはその痕跡	_	
屋根	その他	40. 0	防水層の劣化	_	
			経年 (新設もしくは改 修後)	経年 20 年以上	
	<i>%</i> >₩		外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	広範囲に多くの劣化がある少数の部材にも多くの劣化部分がある大規模修繕が必要	
外壁	塗装その他	40. 0	漏水の発生・痕跡の有無	広範囲に多くの劣化がある少数の部材にも多くの劣化部分がある大規模修繕が必要	
内壁	石こうボード EP	40. 0			
天井	化粧石こうボー ド	60. 0	劣化	仕上げ材等の劣化が 広範囲にあり、部分 修繕が必要	
床	ビニールシート 張り	60. 0			
** -	I Abril		劣化	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし	
建具	木製	80. 0	開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし	
電灯・電話設	電灯設備電気時計	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし	
備	拡声設備 避雷設備 電話設備	60. 0	経年(新設後更新後)	経年 20 年以上	
受変電設備	あり	60. 0	定期点検等の結果	特に問題なし	
义 及电队佣	<i>(x)</i> ')	00.0	経年(新設後更新後)	経年25年以上	
自家発電設備	_	00. 0	定期点検等の結果	_	
			経年 (新設後更新後)		

-

 $^{^2}$ Is 値:構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
動力設備	_	00.0	経年(新設後更新後)	_
非常用照明·	非常用照明	70. 0	定期点検等の結果	特に問題なし
火災報知設備	火災報知設備	70.0	経年 (新設後更新後)	経年 15 年以上
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	20. 0	経年(新設後更新後)	経年 20 年以上
空気調和・換	空気調和設備 換気設備	70. 0	定期点検等の結果	特に問題なし
気・排煙設備	排煙設備	70.0	経年(新設後更新後)	経年 15 年以上
給排水・衛	給排水設備	60. 0	定期点検等の結果	特に問題なし
生・給湯設備	衛生設備給湯設備	60.0	経年(新設後更新後)	経年25年以上
沙山 二二八世		00. 0	定期点検等の結果	_
消火設備		00.0	経年 (新設後更新後)	_
エレベーター		00. 0	定期点検等の結果	_
設備		00.0	経年 (新設後更新後)	_

(3) 目標耐用年数

		配 電		鉄筋	平均	中性化	目標
建築年	経年	展	耐震性能		圧縮強度	深さ	耐用年数
建架中	产	耐震基準	補強後の I S値		_		65 年
1989	30	新	_				

経年による劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いため、福岡県立総合射撃場のエアライフル棟の目標耐用年数を原則どおり65年(残年数を35年)と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築30年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は35年となり、計画期間に施設の更新(建替え)を行う予定はありません。

(2)対策の平準化について

優先順位の考え方に沿って、費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、順次改修を行うこととします。

(3)対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、取組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

				(百万円)			
57.	话日	実施時期					
区分	項目	令和元~2年度	令和3~5年度	令和6~8年度			
主要部仕上げ	屋根・防水、内	0	15	25			
土安部江上()	壁、天井、建具	U	19	25			
	電灯・電話設備、						
	自家発電設備、動			9			
電気設備	力設備、非常用照	0	39				
	明・火災報知設						
	備、その他の設備						
	給排水・給湯・ガ						
	ス設備、空気調						
機械設備	和・排煙設備、消	0	0	38			
	火設備、エレベー						
	ター						
その他	外構	0	0	0			
	計	0	54	72			

[※]上記は実際の予算や事業費等とは異なります。

福岡県立総合射撃場 スモールボアライフル棟 個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	6 3
施設所管課	教育庁教育振興部 体育スポーツ健康課

令和2年2月

☆福 岡 県☆

福岡県立総合射撃場スモールボアライフル棟 個別施設計画

目次

第1章	概要	••••••
	(1)	対象施設の概要
	(2)	対象施設の活用状況
	(3)	計画期間
	(4)	位置図等
第2章	優先順	頁位の考え方 ・・・・・・・・・・・・・・・・3
	(1)	施設間の優先順位
	(2)	施設内での優先順位
	(3)	その他
第3章	個別施	直設の状態等 ・・・・・・・・・・・・・・・・4
	(1)	個別施設の状態
	(2)	施設の現存率
	(3)	目標耐用年数
第4章	対策⊄)内容等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
	(1)	改修・更新について
	(2)	対策の平準化について
	(3)	対策の内容等

第1章 概要

(1)対象施設の概要

対	象	-	施	設	福岡県立総合射撃場				
所				管	教育庁教育振興部体育スポーツ健康課				
整	理	;	番	号	63	63 竣工年度 平成元年度			
所		在		地	福岡県筑紫野市大	福岡県筑紫野市大字柚須原223-25			
敷	地面	ī 積	(m²)	143, 131. 27	143, 131. 27 建築面積(㎡) 2, 410. 42			
主		構		造	S 延床面積(m²) 2,410.42				
主	要	建	築	物	管理棟、エアライフル棟、スモールボアライフル棟				

(2) 対象施設の活用状況

建物	の	名	称	スモールボアライフル棟							
棟 番	•	枝	番	1013	1013 - 3 竣工年度 平成元年度						
建築面積(㎡) 777.99 延床面積(㎡) 777.99						777. 99					
構造	•	階	数	S造 地	S造 地上1階						
	各階面積及び用途										
階別	階別 階床面積(m²) 主 な 用 途 (室 名 他)										
1F		777	. 99	スモール	スモールボアライフル射撃場等						

福岡県立総合射撃場のスモールボアライフル棟はとびうめ国体開催にあたり、 平成元年度に竣工しました。

ライフル射撃の普及振興並びに射撃技術の向上を図り、心身の健全な発達に寄 与することを目的とした施設となっています。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築30年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

(2) 施設内での優先順位

経年により劣化が進行している設備についても予防保全型管理のうえでの標準 的な改修時期に合わせた計画的な改修を行っていきます。

(3) その他

敷地内にはスモールボアライフル棟のほか、管理棟、エアライフル棟があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

施設設備の不具合等が発見された場合には事後保全による修繕を行っていますが、予防保全による改修はできていない状況です。

(2) 建物全体の現存率

建築物現存率調査票

施設名称	福岡県立総合射撃場 建物名称				スモールボアライフル棟							
所在地	筑紫野市大字柚須原223-		23-25		棟番•枝番		1013	- 3	築年数		30 年	
建築年度	平成元年度		建築面	積	777.99 m²		m	四大家	60.0	想定		65 年
構造∙階数	S 1		延面積	į	777.99 m ²		m [‡]	現存率	68.0	耐用年数		65 +
区分	<u>構成(P)</u>			仕様		経過 年数	現	<u>象(K)</u>	<u>× 100</u>	(PK)	Σ	<u>PK/Σ P</u>
構造	躯体 40 S		s		30			1.000	100.0	4,000.0		-
117.00					小計					4,000.0		100.00
	屋根・防水 20 その		その他	·の他		30	(0.400	40.0	800.0		_
主要部 仕上げ	外壁	小 壁 20 塗装、その他			30		(0.400	40.0	800.0		_
					小計					1,600.0		40.00
電気設備	受変電設備	10				30	(0.600	60.0	600.0		-
-5.7412.1/113			小計					600.0		60.00		
機械設備	給排水·衛生·給 湯設備	10				30	(0.600	60.0	600.0		_
IN IN ILA IIM	小計								600.0		60.00	
	슴計							-	6,800.0		68.00	

この結果、福岡県立総合射撃場のスモールボアライフル棟の現存率は「68.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定		
躯体	S	100. 0	耐震診断による Is 値 ³	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準		
			防水層からの漏水 またはその痕跡	_		
屋根	その他	40. 0	防水層の劣化	_		
			経年(新設もしくは改 修後)	経年 20 年以上		
外壁	塗装	40. 0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	広範囲に多くの劣化がある少数の部材にも多くの劣化部分がある大規模修繕が必要		
外壁	その他	40. 0	漏水の発生・痕跡の有無	広範囲に多くの劣化がある少数の部材にも多くの劣化部分がある大規模修繕が必要		
内壁	石こうボード EP	40. 0				
天井	化粧石こうボー ド	40. 0	劣化	仕上げ材等の劣化が 広範囲にあり、部分 修繕が必要		
床	ビニールシート 張り	40. 0				
	アルミ		劣化	仕上げ材等の劣化が 多く認められるが、 部分修繕で対応可能		
建具	木製	70. 0	開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし		
電灯・電話設	電灯設備電気時計	60. 0	定期点検等の結果	特に問題なし		
備	拡声設備 避雷設備 電話設備	60. 0	経年(新設後更新後)	経年 20 年以上		

-

 $^{^3}$ Is 値:構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
受変電設備	あり	60. 0	定期点検等の結果	特に問題なし
又发电欧洲	(8) 9	00.0	刊足切口	経年25年以上
自家発電設備		00. 0	定期点検等の結果	_
日豕光电欧洲		00.0	定期点検等の結果 経年(新設後更新後) にの 定期点検等の結果 経年(新設後更新後) にの 経年(新設後更新後) にの 定期点検等の結果 経年(新設後更新後) にの 経年(新設後更新後) にの 定期点検等の結果 経年(新設後更新後) にの 定期点検等の結果 経年(新設後更新後) にの 定期点検等の結果 経年(新設後更新後) に期点検等の結果 経年(新設後更新後) にの 定期点検等の結果 経年(新設後更新後)	_
動力設備	_	00.0	経年(新設後更新後)	_
非常用照明・		00. 0	定期点検等の結果	_
火災報知設備	_	00.0	経年(新設後更新後)	_
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	20. 0	経年(新設後更新後)	経年 20 年以上
空気調和・換	空気調和設備 換気設備 排煙設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
気・排煙設備		70. 0	経年(新設後更新後)	経年 15 年以上
給排水・衛	給排水設備 衛生設備	60. 0	定期点検等の結果	特に問題なし
生・給湯設備	給湯設備	00.0	経年(新設後更新後)	経年 25 年以上
消火設備	_	00. 0	定期点検等の結果	_
1月八以湘		00.0	経年(新設後更新後)	_
エレベーター	_	00. 0	定期点検等の結果	_
設備		00.0	経年(新設後更新後)	_

○特殊設備の状態

調査部位	種類・形式等	現在の状況		
クレー放出器		・経年劣化により、クレーが正確に 飛ばないことがあり、その都度調整 するため、大会運営に支障をきたし ている。		
標的巻き上げ機		・複数台の標的巻き上げ機が故障して動かない状況で大会運営に支障をきたしている。		

(3) 目標耐用年数

	経年	工厂	性能	鉄筋	平均	中性化	目標
建築年		耐震		腐食度	圧縮強度	深さ	耐用年数
建築 中		耐震基準	補強後の		_	_	65 年
		剛辰茲毕	IS値	_			
1989	30	新	_				

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いため、福岡県立総合射撃場のスモールボアライフル棟の目標耐用年数を原則どおり65年(残年数を35年)と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築30年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は35年となり、計画期間に施設の更新(建替え)を行う予定はありません。

(2) 対策の平準化について

優先順位の考え方に沿って、費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、順次改修を行うこととします。

(3)対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、取組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

	(百万円)								
巨人	西口	実施時期							
区分	項目	令和元~2年度	令和3~5年度	令和 6~8 年度					
ナ亜郊仕しば	屋根・防水、内	0	0	43					
主要部仕上げ	壁、天井、建具	0	Ü						
	電灯・電話設備、								
	自家発電設備、動			10					
電気設備	力設備、非常用照	0	18						
	明・火災報知設								
	備、その他の設備								
	給排水・給湯・ガ								
	ス設備、空気調			18					
機械設備	和・排煙設備、消	0	4						
	火設備、エレベー								
	ター								
その他	クレー放出器等	0	27	0					
	計	0	49	71					

[※]上記は実際の予算や事業費等とは異なります。